

# 大学生における食の嗜好とジェンダーイメージ

五島 淑子・北村 渚<sup>\*1</sup>・中村恵実子<sup>\*2</sup>・前田 侑紀<sup>\*3</sup>・廣永 恭子<sup>\*1</sup>

Food Preferences and Gender Images among University Students

GOTO Yoshiko, KITAMURA Nagisa<sup>\*1</sup>, Nakamura Emiko<sup>\*2</sup>, MAEDA Yuki<sup>\*3</sup>, HIRONAGA Kyouko<sup>\*1</sup>  
(Received January 7, 2014)

キーワード：大学生、イメージ、女性的、男性的、食べ物

## はじめに

食べ物のおいしさは、食べ物の特性要因と食べ物以外の要因に分けられる。食べ物の特性要因には、化学的特性としての味やにおい、物理的特性としての、外観、テクスチャー、温度などがある。一方、食べ物以外の要因としては、人の特性要因として生理的特性、心理的特性、個人的体験があり、環境要因として、食事環境、自然環境、社会環境がある<sup>1)</sup>。

このように食べ物のおいしさは、食べ物の特性要因とともに、食べ物以外の要因も関わっている。それらが総合して、食べ物に対するイメージが形成されていると考えられる。五島は、食生活を明らかにするひとつの方法として、食べ物のもつイメージについて調査を行っている<sup>2~6)</sup>。

「男性は辛いものを好み、女性は甘い物を好む」というような食べ物に対するジェンダー的イメージを持っている人も少なくない。そこで、本稿では、食べ物の持つ男性的、女性的なイメージと、実際に好んでいるのかいないのかという関係を明らかにしたいと考えた。また、小さなデータを積み重ねることで、日常の食生活の記録のひとつとしたい。

## 1. 目的と方法

本調査は、山口大学の学生を対象として、食べ物に対するイメージが、男女によってどのように違うのか、あるいは変わらないのか、男女による食べ物の好き嫌いに違いがみられるのかを調べた。

調査時期は、平成21年7月中旬。調査対象者は、山口大学に在籍する学生。調査方法は、調査票を配布しその場で記入させ回収した。209票回収（回収率は100.0%）し、有効回収率は99.5%（208票）であった。

調査内容は、食べ物に対する男性的か女性的かイメージと自分の好き嫌いである。

対象とした食べ物は、26品目である。食品を和風、洋風、こってり、あっさり、甘い、辛い、アルコールの7グループにわけて、男性的であるか、または女性的とイメージするのか、さらに自分自身はその食品が好きか嫌いかを尋ねた。なお、アルコールの嗜好については未成年であるため印象である。具体的な食品名は、＜和風＞煮物、焼き魚、味噌汁、ごはん、＜洋風＞パスタ、グラタン、ハンバーグ、＜こってり系＞ラーメン、とんかつ、焼き肉、カレーライス、鶏のから揚げ、＜あっさり系＞うどん、酢の物、サラダ、魚の刺身、＜甘い＞ケーキ、パフェ、おはぎ、スイートポテト、＜辛い＞キムチ、イカの塩辛、七味唐辛子、＜アルコール＞ビール、日本酒、カクテル である。

\*1 無所属 \*2 広島市役所 \*3 宇部工業高等専門学校

## 2. 調査対象者の概要

- (1) 性別 調査対象者208人の内訳は、男子53人(25.5%)、女子155人(74.5%)であった。
- (2) 年齢 男子は20歳未満が42人(79.2%)、20歳以上が11人(20.8%)であった。一方、女子は20歳未満が115人(74.2%)、20歳以上が38人(20.8%)であった。男子学生は、19歳が最も多く23人(43.4%)、次いで18歳が多かった19人(35.8%)。女子学生は、18歳が最も多く69人(45.0%)、次いで19歳が多かった46人(30.0%)。
- (3) 学部 教育学部が最も多く(男子学生16人30.2%、女子学生59人38.1%)、次いで医学部が多かった(男子学生11人20.8%、女子学生42人27.1%)。
- (4) 学年 1年生が最も多かった(男子学生40人75.5%、女子学生126人81.3%)。次いで多かったのは、男子学生は2年生10人(18.9%)、女子学生は3年生16人(10.3%)であった。
- (5) 出身地 男子学生は山口県が最も多く14人(26.4%)、次いで広島県が多かった8人(15.1%)。女子学生は山口県が最も多く46人(29.9%)、次いで福岡県が多かった28人(18.2%)。
- (6) 居住形態 男女ともにアパートに住んでいる人が最も多かった(男子学生50人94%、女子学生133人85%)。次いで自宅に居住している人が多かった(男子学生2人4%、女子学生18人12%)。

## 3. 食べ物のイメージ

食べ物のイメージを男女別に図1、図2に示した。1(男性的)、2(やや男性的)、3(どちらともいえない)、4(やや女性的)、5(女性的)として、それぞれの食べ物の平均値を算出し、数値の低い順、男性的なイメージのあるものから並べた。

男性的だとイメージされている上位3位は、男子学生では、日本酒、ビール、ラーメン、女子学生では、日本酒、ビール、ラーメンで、その順位は男女で少し異なるが、ほぼ同じイメージである。女性的とイメージされた上位3位は男女ともパフェ、ケーキ、スイートポテトであった。食べ物に対するイメージに男女差は認められなかった。

## 4. 男女別にみた食べ物の嗜好

食べ物に対する嗜好を図3、図4に示した。1(好き)、2(やや好き)、3(普通)、4(やや嫌い)、5(嫌い)として、それぞれの食べ物の嗜好の平均値を算出し、数値の低い順、好きな順番に並べた。

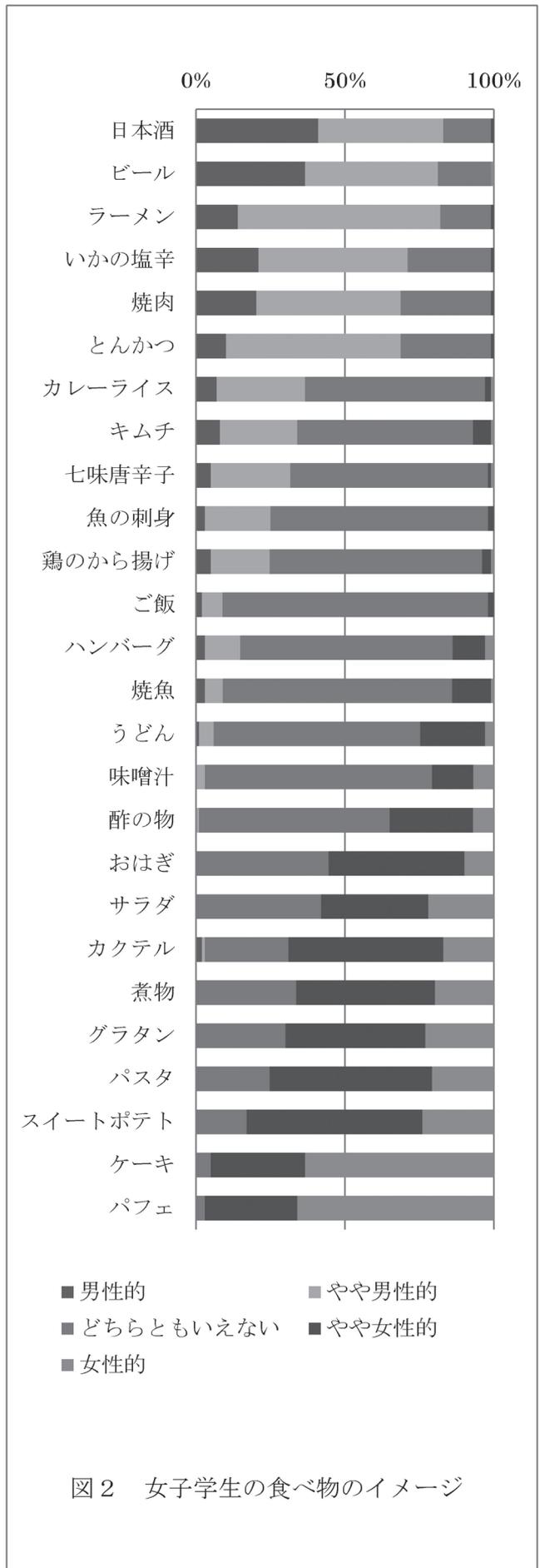
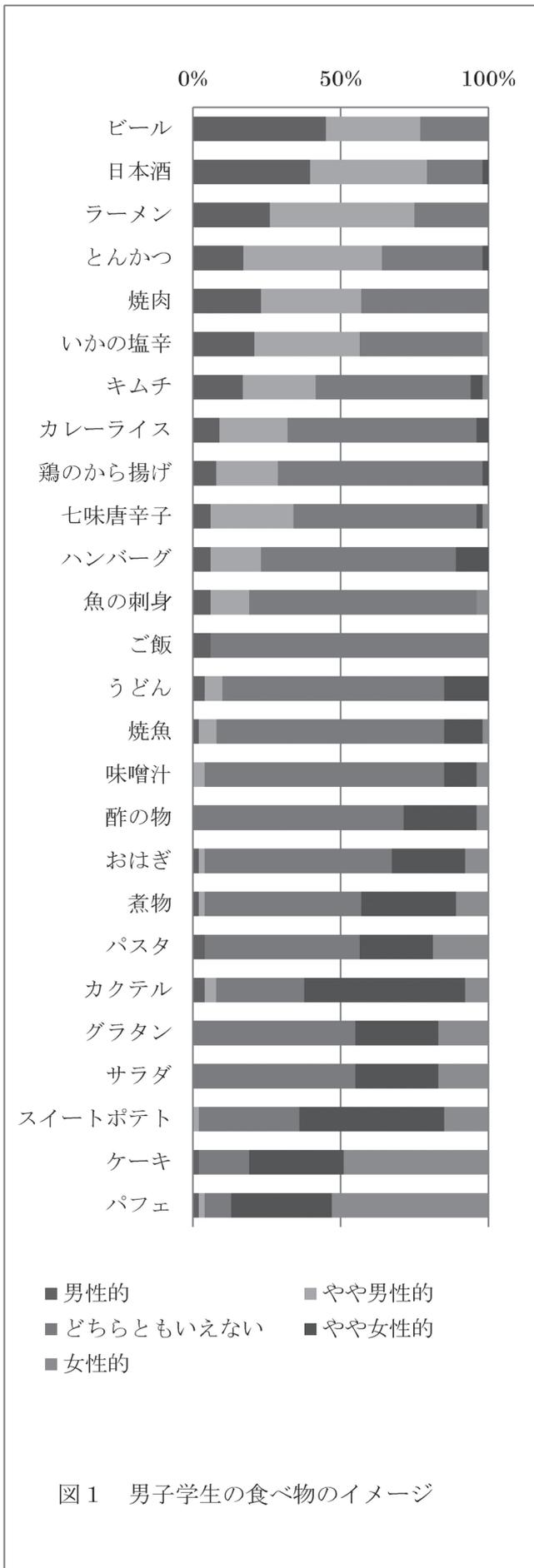
好きな食べ物の上位3位は、男子学生は、焼き肉、鶏のから揚げ、ハンバーグ、女子学生は、パスタ、グラタン、ケーキであり、男女の嗜好に大きな違いがあった。一方嫌いな食べ物の上位3位は、男子学生は、ビール、日本酒、いかの塩辛で、女子学生は日本酒、ビール、いかの塩辛で、その順位には多少違いがあったが、嫌いなものはほぼ同じであった。

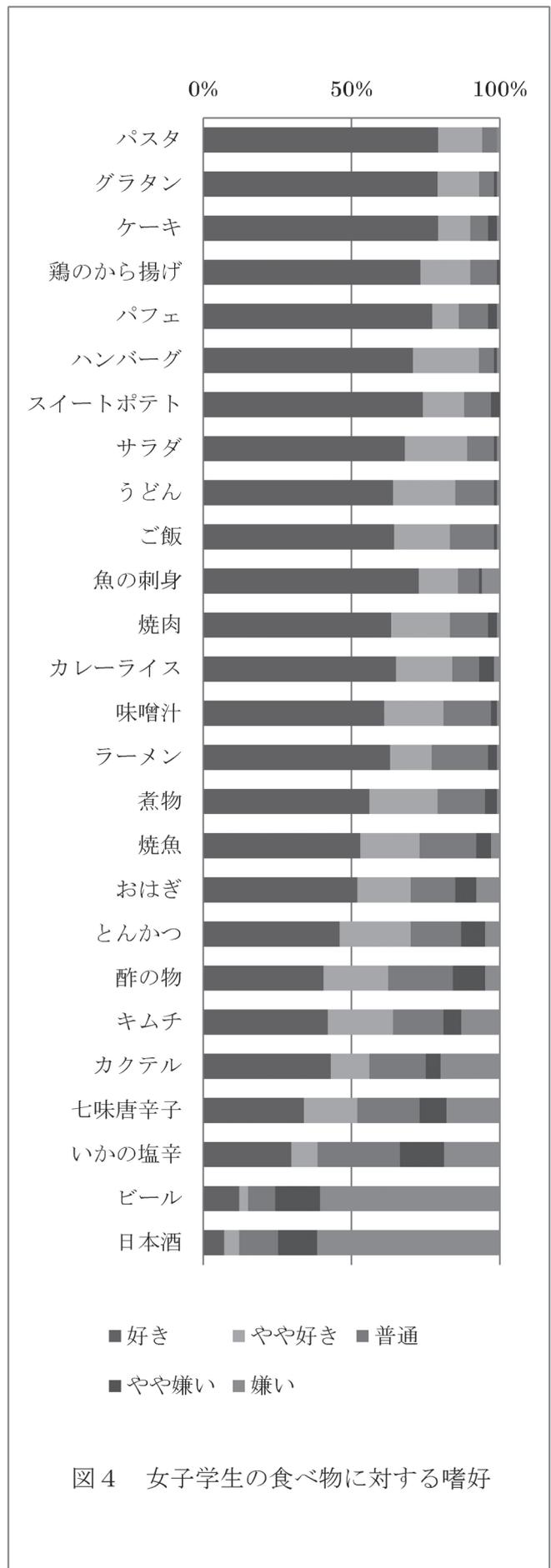
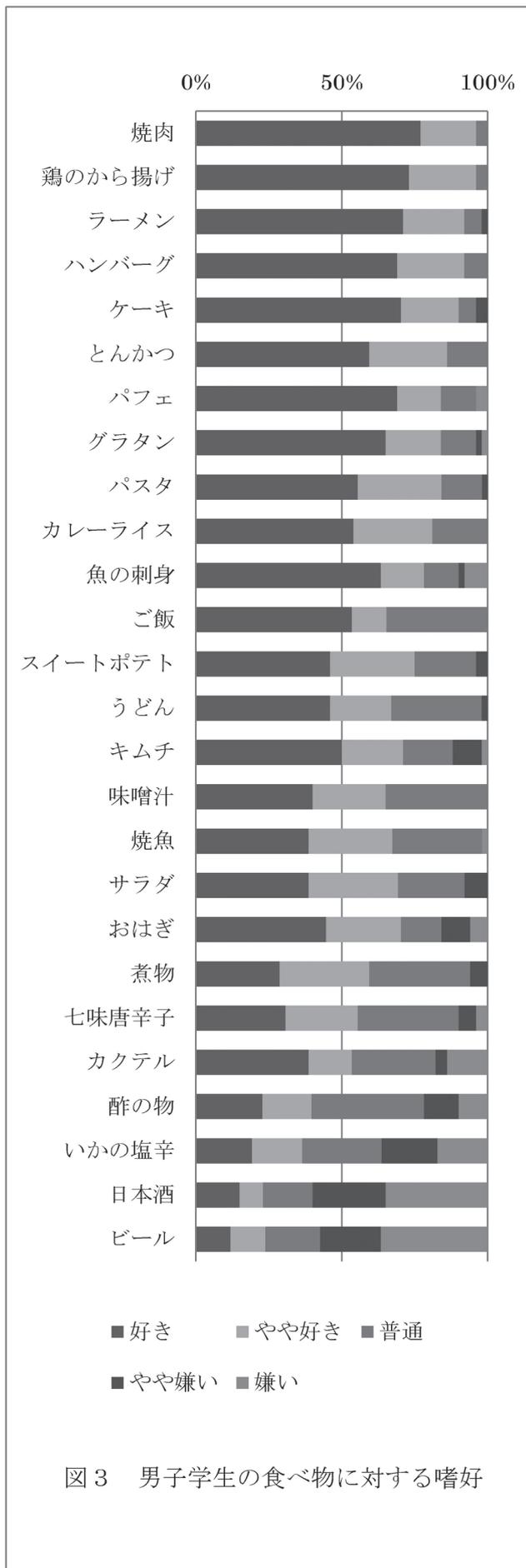
## 5. 食べ物のイメージと嗜好の関係

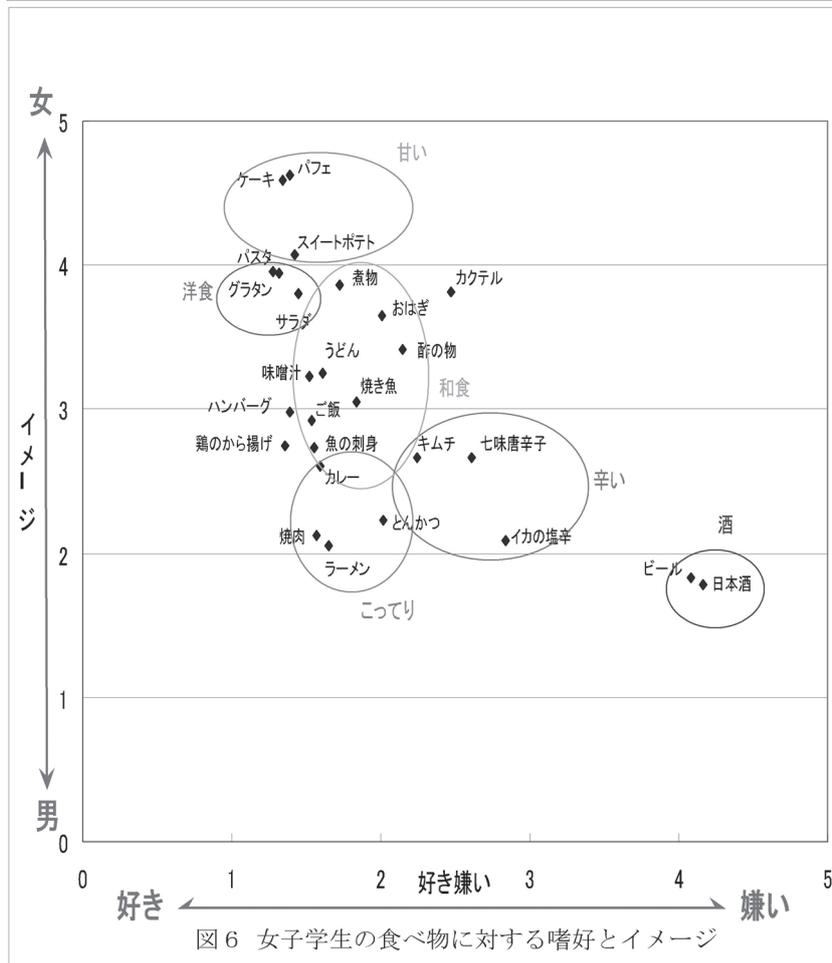
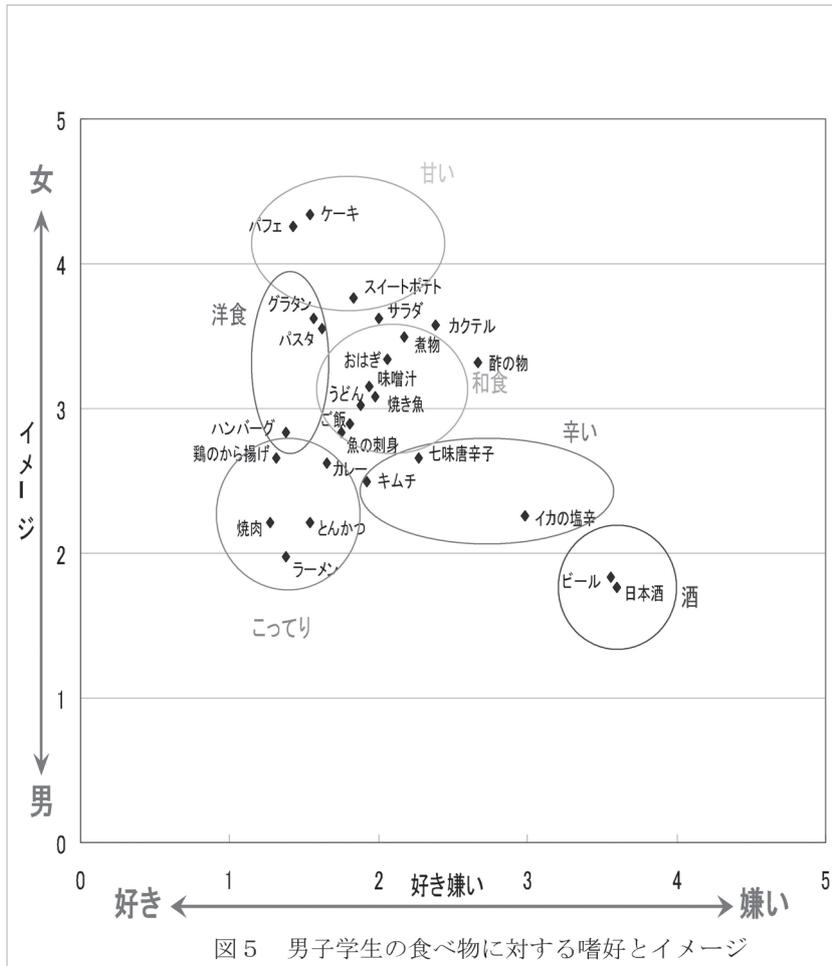
食べ物に対する男性的または女性的イメージと嗜好の関係を図5、図6に示した。食べ物のイメージの平均値と嗜好の平均値をプロットしたものである。要約すると以下のようになる。

- 甘い(パフェ、ケーキ等)・・・女性的なイメージが強い/女性によく好まれている
- 洋食(パスタ、グラタン等)・・・やや女性的なイメージ/女性によく好まれている
- あっさり(うどん、酢の物等)・・・やや女性的なイメージ/やや女性に好まれている
- 和食(味噌汁、ご飯、煮物等)・・・中性的なイメージ/男女ともにやや好まれている
- こってり(焼肉、とんかつ等)・・・男性的なイメージ/男性によく好まれている
- 辛い(キムチ、イカの塩辛等)・・・やや男性的なイメージ/やや男性に好まれている
- 酒(ビール、日本酒)・・・男性的なイメージが強い/男女ともに嫌われている

食べ物に対するイメージに関しては男女間で違いは見られなかったが、嗜好については男女間で差がみられた。この嗜好の違いが、食べ物の男性的または女性的なイメージにつながっていると考えられる。







## おわりに

最も女性的だとイメージされていた「甘い」ものは、男子学生も好んでおり、最も男性的とイメージされた「酒」は実際には男子学生に嫌われていた。これは、未成年が多く好き嫌いをイメージで評価していることにも原因があるといえる。

石毛は、日本文化の中で茶と酒を対立した飲み物とし、「酒＝酩酊＝ハレ＝神＝辛党＝男性的」に対して、「茶＝覚醒＝ケ＝仏＝甘党＝女性的」という固定したイメージを持っているとして、対立した図式を示している<sup>7)</sup>。

飲食物の持つイメージについては、今後データの蓄積をして、食生活を分析したいと考えている。また、小中学校における食べ物の取り扱いの資料としての可能性を広げたいと考えている。

アンケート調査に快くご協力頂いた山口大学の学生皆様に感謝します。

## 文献

- 1) 渋川祥子編著：『食べ物と健康—調理学』同文書院 2009 p. 16.
- 2) 大下市子・山本友江・五島淑子：調理済み・半調理済み食品の利用とそのイメージ—大阪・広島・山口に在住する学生の家族の調査—，栄養学雑誌，**47** (6) ，7-16，1989.
- 3) 五島淑子・小田美代子・富重妙子：山口県におけるすしの喫食状況とそのイメージ—郷土料理「角ずし」との比較—，山口大学教育学部研究論叢，**45**，第1部，15-25，1995.
- 4) 五島淑子・金津槇子：大学生における鯨料理の喫食経験とイメージ—1982年以後生まれを対象として—，山口大学教育学部論叢，**57**，第1部，77-83，2008.
- 5) 五島淑子：大学生における米飯・パン・スパゲッティのイメージ，食生活研究，**22** (5) ，37-44 ，2002.
- 6) 五島淑子・石田佳菜絵・小野佑輔・広津理恵・前田綾子・村尾奈美・柏木享：大学生における酒類のイメージ，山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，9-16，2012.
- 7) 熊倉功夫・石毛直道編『日本の食・100年〈のむ〉』（ドメス出版・1996年）